

# 岡山県感染症週報 2017年 第45週 (11月6日～11月12日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

12月1日は『世界エイズデー』です

【お知らせ】2017年第46週(11/13～11/19)の感染症週報は、11月27日(月)にホームページへ掲載いたします。

## ◆2017年 第45週 (11/6～11/12) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第44週	2類感染症	結核	1名 (80代 女)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3名 (O26:小学生 女 1名、 O157:小学生 男 1名・女 1名)
	5類感染症	梅毒	2名 (30代 女 1名、50代 男 1名)
第45週	2類感染症	結核	3名 (70代 男 1名、80代 男 1名・女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3名 (O157:20代 男 3名)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (80代 女)
		水痘 (入院例に限る。)	1名 (幼児 女)
		梅毒	2名 (20代 女 1名、50代 男 1名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- RSウイルス感染症は、県全体で84名(定点あたり1.39→1.56人)の報告があり、前週より増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で69名(定点あたり1.20→1.28人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

### 【第46週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:70代 女)の発生がありました。(11月15日)

1. **12月1日は『世界エイズデー』です。**岡山県では『世界エイズデー(12月1日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動及び保健所・支所で夜間・休日等のHIV抗体検査を実施します。詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第44週に3名、第45週に3名の報告があり、2017年第45週まで(～11/12)の報告数は65名となりました。さらに第46週(11/15)にも1名の報告があり、依然として患者が発生しています。手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
3. **RSウイルス感染症**は、県全体で84名(定点あたり1.39→1.56人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。県内の発生状況など、詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で69名(定点あたり1.20→1.28人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市(2.09人)、備北地域(1.75人)、岡山市(1.36人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。のどの痛みがひどい場合は、柔らかい薄味の食事など調理の工夫をし、こまめな水分補給を心がけてください。就学前から学童期の小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

### ◆◆ お知らせ ◆◆

インフルエンザの流行が懸念される時期になりました。次週(第46週)から、岡山県感染症週報及び岡山県感染症情報センターホームページに『インフルエンザ情報』の掲載を開始します。

『インフルエンザ情報』では、「**地区別発生状況**」「**ウイルス検出状況**」「**学校等の臨時休業施設数**」「**入院サーベイランス**」など、県内の発生状況をお知らせします。

また、岡山県感染症情報メールマガジンでは、発生状況の概要を掲載するとともに、インフルエンザ注意報・警報発令時には臨時号を発行し、より早く情報をお届けします。『インフルエンザ情報』をインフルエンザの予防と感染拡大防止にお役立てください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↗	★★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↗	
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↗	
マイコプラズマ肺炎	↗	★★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加    ↗：増加    →：ほぼ増減なし    ↓：大幅な減少    ↘：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減    増加・減少：前週比10～100%未満の増減

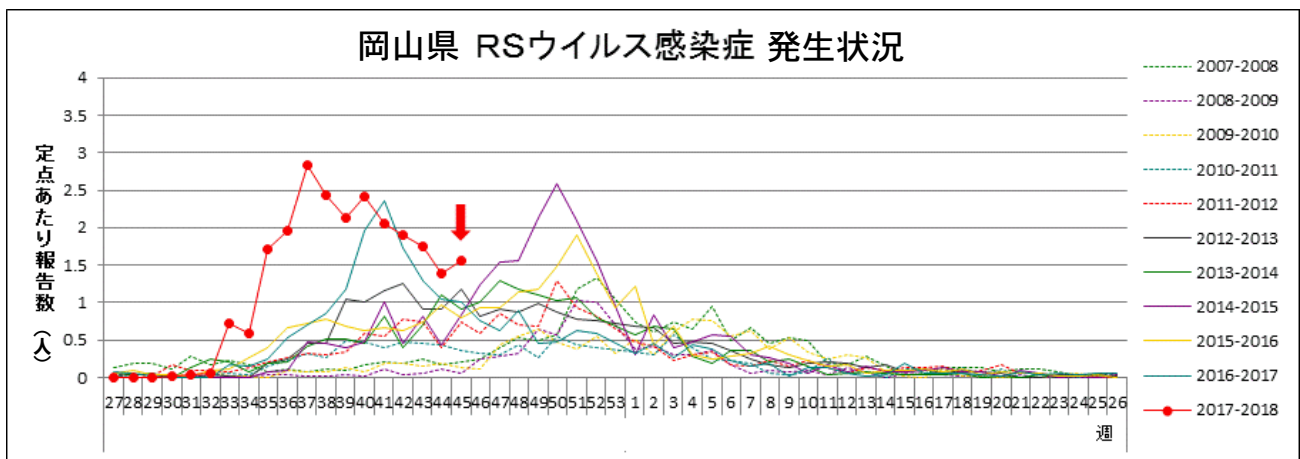
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません)  
 空白：発生なし    ★：わずか    ★★：少し    ★★★：やや多い    ★★★★：多い    ★★★★★：非常に多い

## 今週の注目感染症(1)

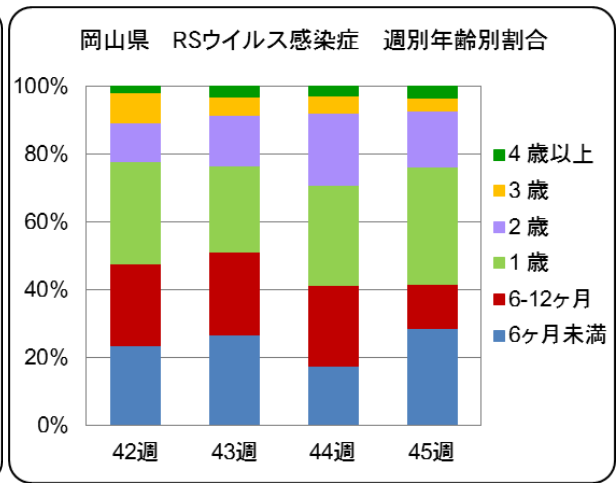
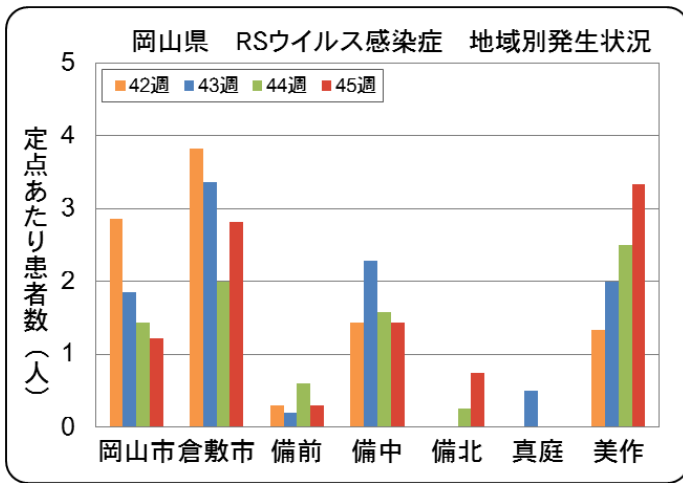
### RSウイルス感染症

#### 【岡山県の発生状況】

RSウイルス感染症は、県全体で84名(定点あたり1.39→1.56人)の報告があり、前週より増加しました。第40週(10/2～10/8)以降患者数は減少傾向にありましたが、5週間ぶりの増加となっています。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、美作地域(3.33人)、倉敷市(2.82人)の順で定点あたり報告数が増えており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。年齢別では、1歳以下の乳幼児が全体の76%を占めており、6ヶ月未満と1歳の割合が前週より高くなっています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。

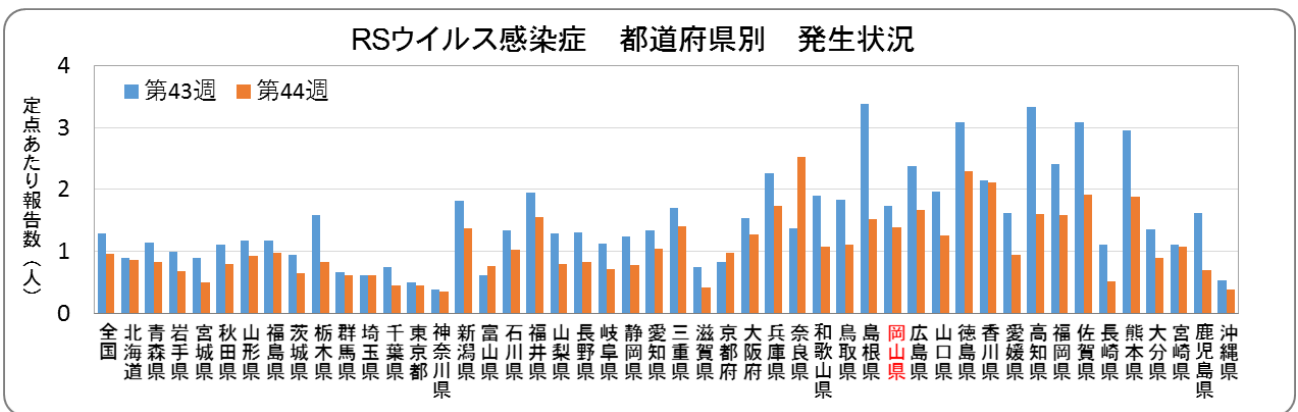
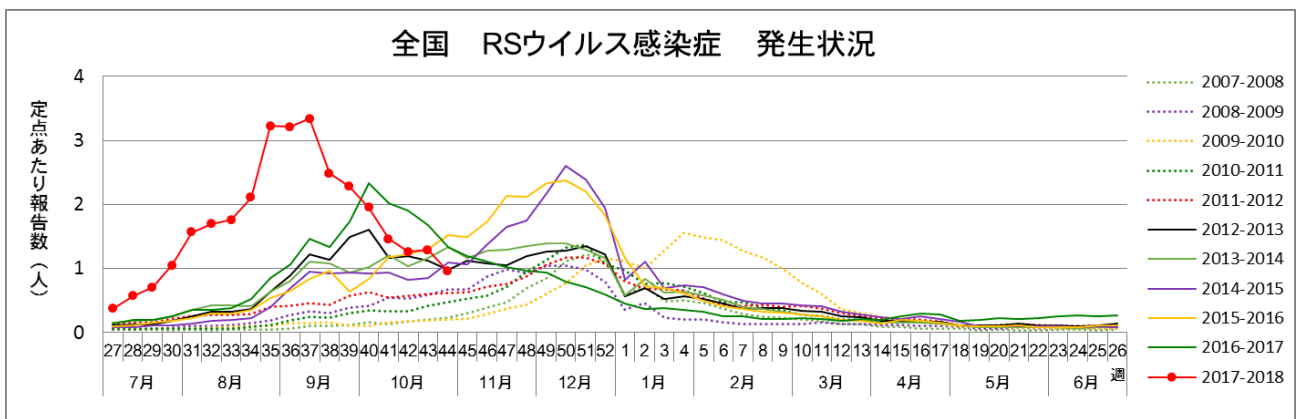


※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



**【全国の発生状況】**

全国の第44週（10/30～11/5）の発生状況は、定点あたり報告数が0.96人であり、第37週（9/11～9/17）以降減少傾向にあります。都道府県別では、奈良県（2.53人）、徳島県（2.30人）、香川県（2.11人）の順で定点あたり報告数が多くっており、近隣県でも多くの患者が報告されています。



[IDWR 速報データ 2017年第44週（国立感染症研究所）](#)

**【RSウイルス感染症とは】**

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割で肺炎や細気管支炎といった重篤な症状がみられます。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのがが鳴るなどの呼吸器症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて重症化しにくくなります。

## 【感染経路】

感染している人の咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることによる間接的な接触で感染します。

## 【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の防止につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。現在、RSウイルス感染症に有効なワクチンはありません。

## 【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

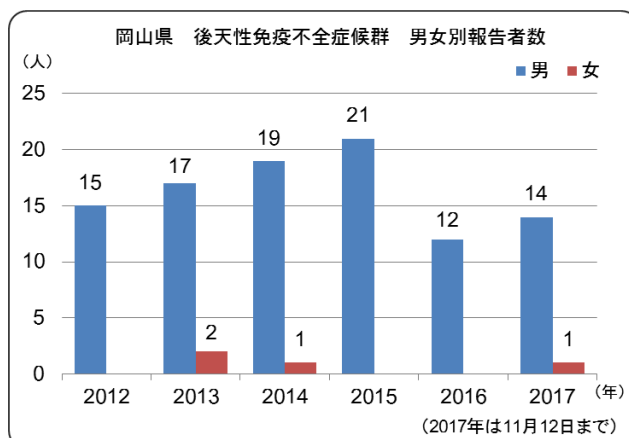
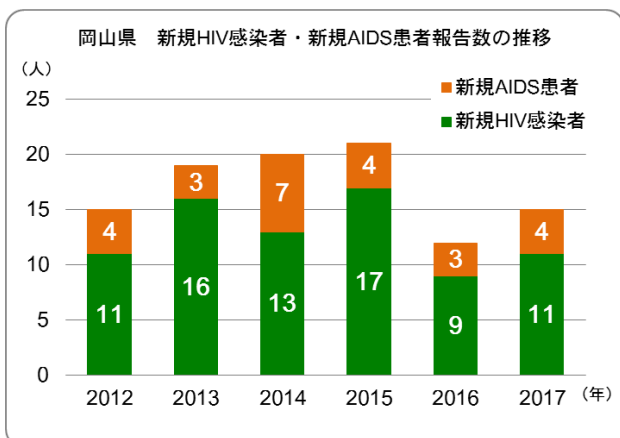
[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

## 今週の注目感染症（2）

### 後天性免疫不全症候群（AIDS）

#### 【岡山県の発生状況】

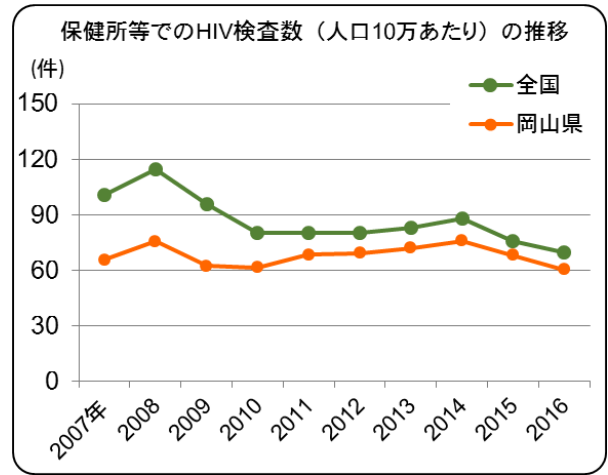
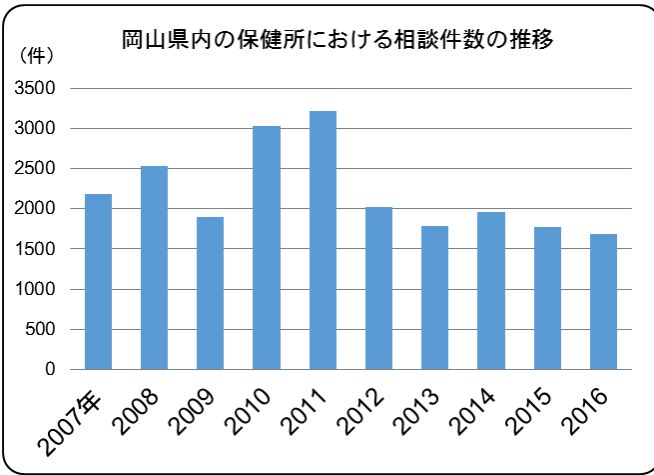
2017年の発生状況は、11月12日までに報告されたHIV感染者は11名、AIDS患者は4名で、両者合わせた新規報告数は15名となっています。2016年の両者合わせた新規報告数は12名で、2015年（21名）から減少していましたが、2017年はすでに前年を上まわっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成28(2016)年エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から2017年のデータを追加して作成

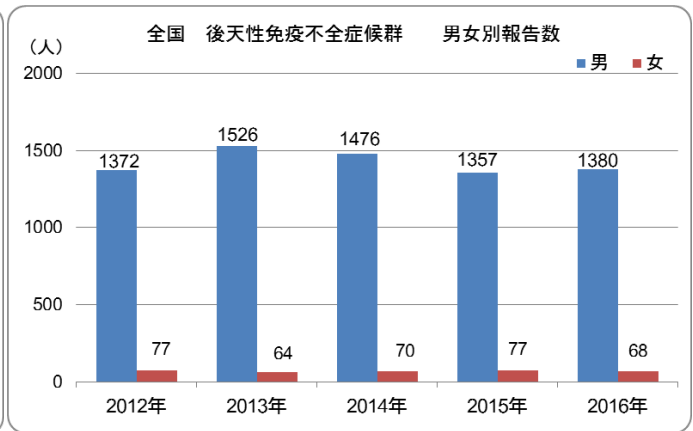
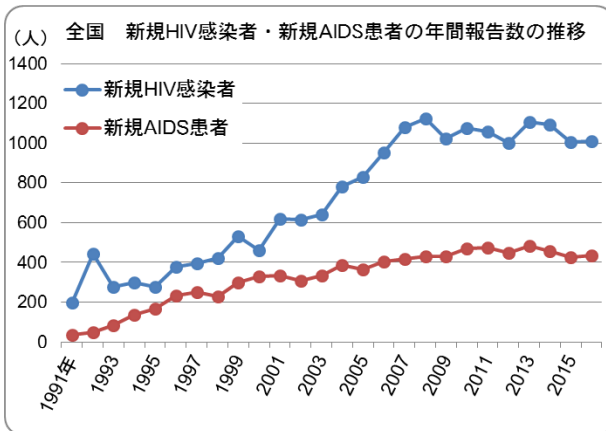
#### 【岡山県内におけるHIV抗体検査・相談件数】

2016年の岡山県内の保健所等における相談件数は、2011年をピークに減少し、2012年以降ほぼ横ばいで推移しています。また保健所及び拠点病院でのHIV検査数（人口10万あたり）は、2010年以降ほぼ横ばい状態であり、全国の保健所等でのHIV検査数（人口10万あたり）と比較して少なくなっています。

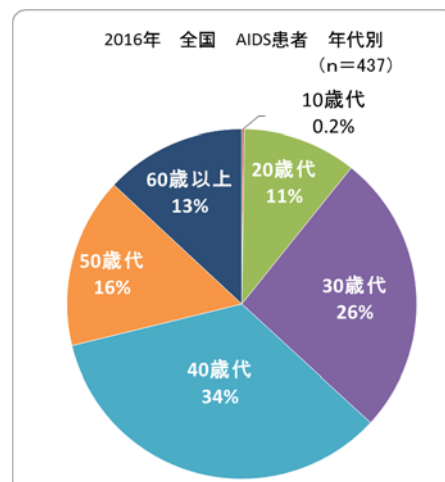
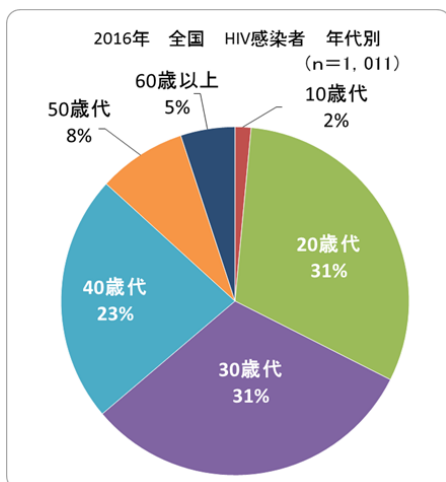


## 【全国の発生状況】

HIV感染者及びAIDS患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。2016年エイズ発生動向年報によると、HIV感染者の新規報告数は1,011名（前年1,006名）でした。2007年以降ほぼ横ばいで推移しており、年間1,000名を超える報告数となっています。AIDS患者の新規報告数は、437名（前年428名）と、2006年以降年間400名以上に上っており、2010年から横ばい状態が続いています。都道府県別で見ると、2016年HIV感染者報告数（人口10万あたり）は、東京都（2.716）、大阪府（1.585）、沖縄県（1.181）の順で多くなっています。また、AIDS患者報告数（人口10万あたり）は、福岡県（0.901）、佐賀県（0.725）、東京都（0.712）の順で多くなっています。なお、HIV感染者、AIDS患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも1%未満にとどまっています。



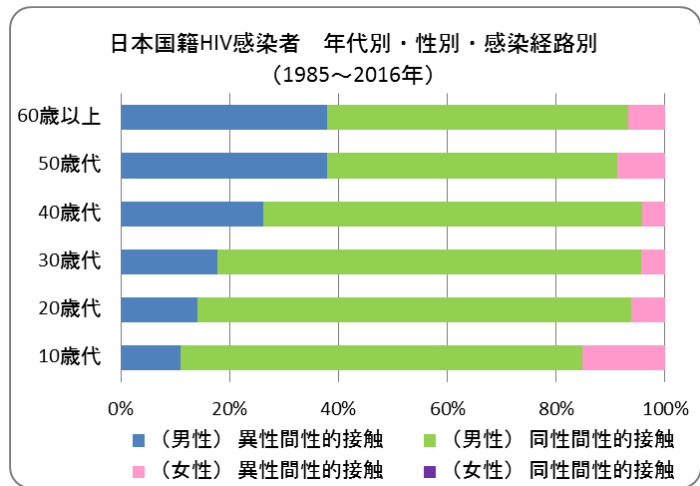
厚生労働省エイズ動向委員会 平成28(2016)年 エイズ発生動向データより作成



厚生労働省エイズ動向委員会 平成28(2016)年 エイズ発生動向データより作成



年代別では、HIV 感染者は 20～40 歳代で多くなっています。また AIDS 患者は、20 歳以上の各年代に分散していますが、特に 40 歳代で多くなっています。HIV 感染者の年代別感染経路では、男性はいずれの年齢においても同性間性的接触の割合が最も高く、年齢が上がるにつれて異性間性的接触の割合が高くなる傾向がみられます。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 28(2016)年 エイズ発生動向データより作成

### 【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

AIDS は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝AIDS ということではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、AIDS 発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することで AIDS 発症を予防することが可能になっています。

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、はじめて感染の有無を確認することができます。

### 【感染経路】

HIV の主な感染経路は、次の 3 つです。

#### (1) 性行為による感染

HIV は感染者の血液や精液、膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口から体内に入ることによって感染します。

#### (2) 血液を介しての感染

麻薬等の依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用などによって感染します。なお、血液凝固因子製剤については、加熱処理が行われているため、感染する心配はありません。

#### (3) 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。日本では、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を 1% 以下に抑えることができます。

### 【予防方法】

性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV 感染／AIDS 予防にとって最も有効な手段です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

[・エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)

# 2017年12月1日 世界エイズデー 『UPDATE! エイズのイメージを変えよう』



**レッドリボン**  
エイズに対する理解と  
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

[・API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2016年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数とAIDS（後天性免疫不全症候群）患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、27,000件に達しました。地域的、年齢的にもひろがりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

**HIV感染者** …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

**AIDS患者** …… 受診時、すでにAIDSを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS患者として報告されたもの（※いきなりエイズ）。

（既にHIV感染者と報告されている症例がAIDSを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、AIDS発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。

AIDS発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

## 12月1日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。

### [平成29年度保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日等検査 日程一覧](#)

\*\*\*\*\*

○岡山県では、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱として、全県を挙げて、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成25年度から実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所の

エイズ検査（一部、梅毒等も含む）・性感染症相談はこちらから

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

### **HIV検査について**

HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないとわかりません。HIVに感染してからAIDS発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期がつづくため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIVは、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬等をつづけることで、AIDSの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がAIDS発症防止やHIV感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律1,000円・即日検査）などでのHIV検査を積極的に利用することが望まれます。もしHIV検査で感染していることがわかった場合でも、県内10ヶ所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
<a href="#">保健所</a>	抗体検査	岡山市・倉敷市・備前・美作保健所 即日 (約1 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 3ヶ月経過後	無料	必須	匿名 性感染症検査も同時に受けられる
		その他の保健所・支所 1 週間後				
<a href="#">拠点病院</a>	抗原抗体検査	即日 (1~2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1,000 円	必須	匿名では受けられない

**HIV 等、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！**

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV 等、性感染症の検査は、保健所および医療機関などで受けてください。



保健所別報告患者数 2017年 45週(定点把握)

( 2017/11/06～2017/11/12 )

2017年11月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	2	0.09	-	-	3	0.20	2	0.17	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	84	1.56	17	1.21	31	2.82	3	0.30	10	1.43	3	0.75	-	-	20	3.33
咽頭結膜熱	14	0.26	3	0.21	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	69	1.28	19	1.36	23	2.09	8	0.80	5	0.71	7	1.75	1	0.50	6	1.00
感染性胃腸炎	309	5.72	84	6.00	52	4.73	47	4.70	20	2.86	18	4.50	18	9.00	70	11.67
水痘	13	0.24	6	0.43	1	0.09	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	74	1.37	52	3.71	17	1.55	2	0.20	-	-	-	-	2	1.00	1	0.17
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
突発性発疹	21	0.39	13	0.93	4	0.36	2	0.20	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	0.22	3	0.21	5	0.45	1	0.10	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	3	0.75	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	4	4.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2017年 45週(発生レベル設定疾患)

( 2017/11/06～2017/11/12 )

2017年11月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	2	0.09	-	-	3	0.20	2	0.17	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	0.26	3	0.21	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	8	1.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	69	1.28	19	1.36	23	2.09	8	0.80	5	0.71	7	1.75	1	0.50	6	1.00
感染性胃腸炎	309	5.72	84	6.00	52	4.73	47	4.70	20	2.86	18	4.50	18	9.00	70	11.67
水痘	13	0.24	6	0.43	1	0.09	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	74	1.37	52	3.71	17	1.55	2	0.20	-	-	-	-	2	1.00	1	0.17
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	0.22	3	0.21	5	0.45	1	0.10	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	3	0.75	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2017年 第45週 2017/11/06～2017/11/12 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	7	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	84	24	11	29	14	3	2	-	-	1	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	14	-	1	2	1	5	-	2	1	-	1	1	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	69	-	-	2	2	6	6	14	6	7	6	4	10	1	5
感染性胃腸炎	309	17	24	65	22	13	17	12	17	11	8	8	22	13	60
水痘	13	-	-	-	2	2	3	-	-	2	-	1	3	-	-
手足口病	74	-	5	26	20	8	4	2	5	1	2	-	1	-	-
伝染性紅斑	4	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	2	6	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	-	1	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	12	1	-	-	-	-	1	3	2	2	-	-	3	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	-	

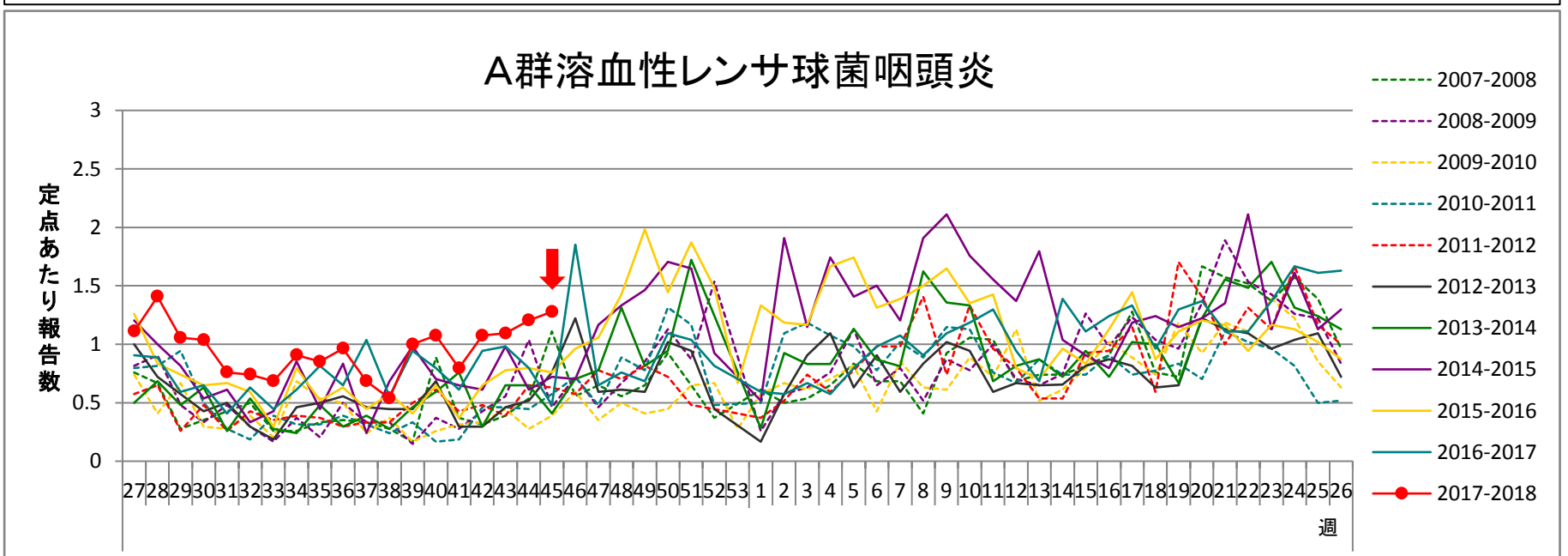
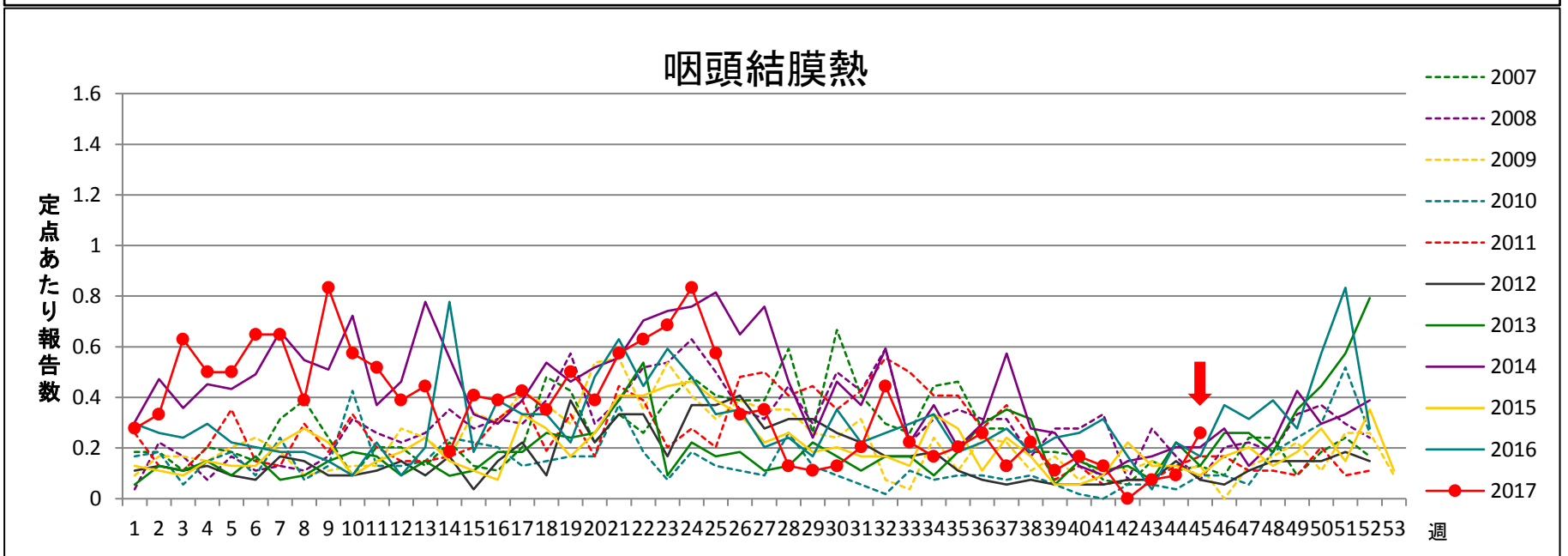
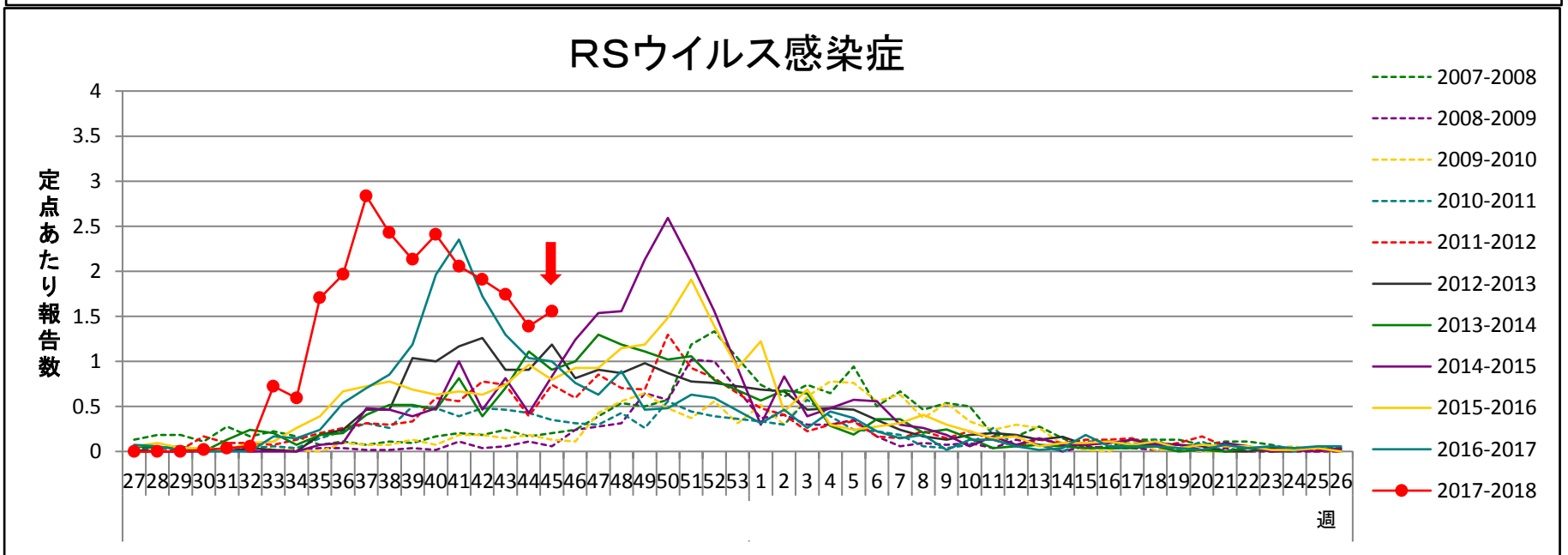
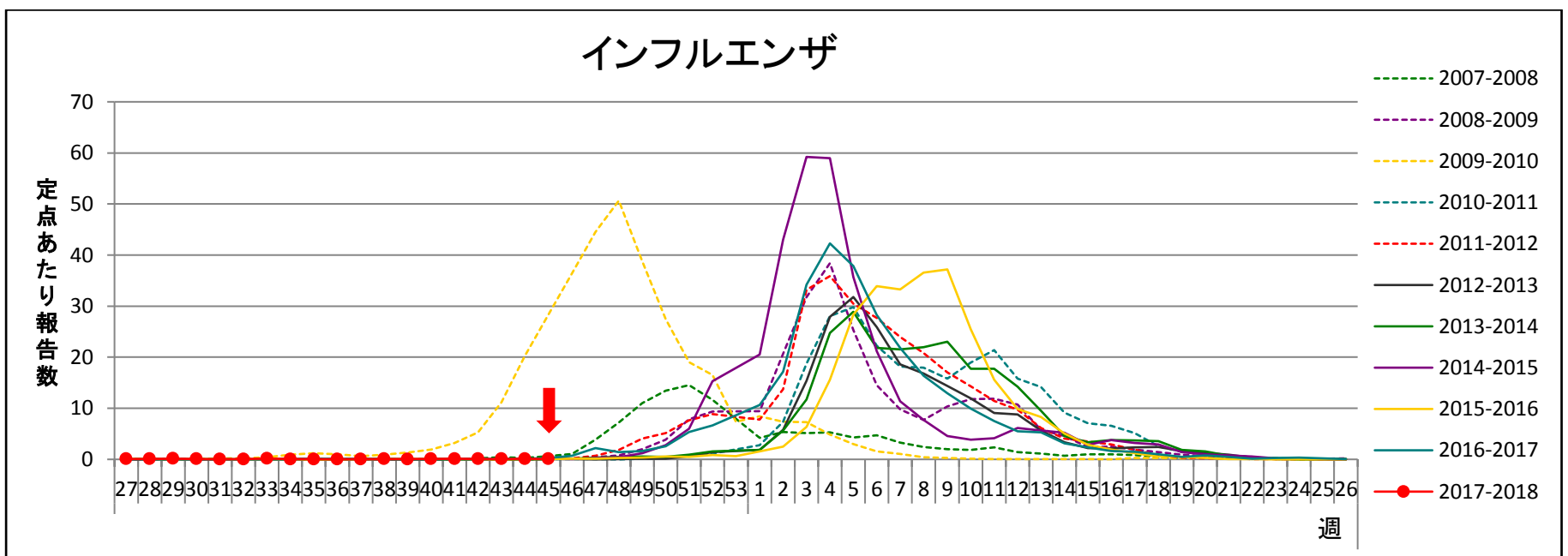
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

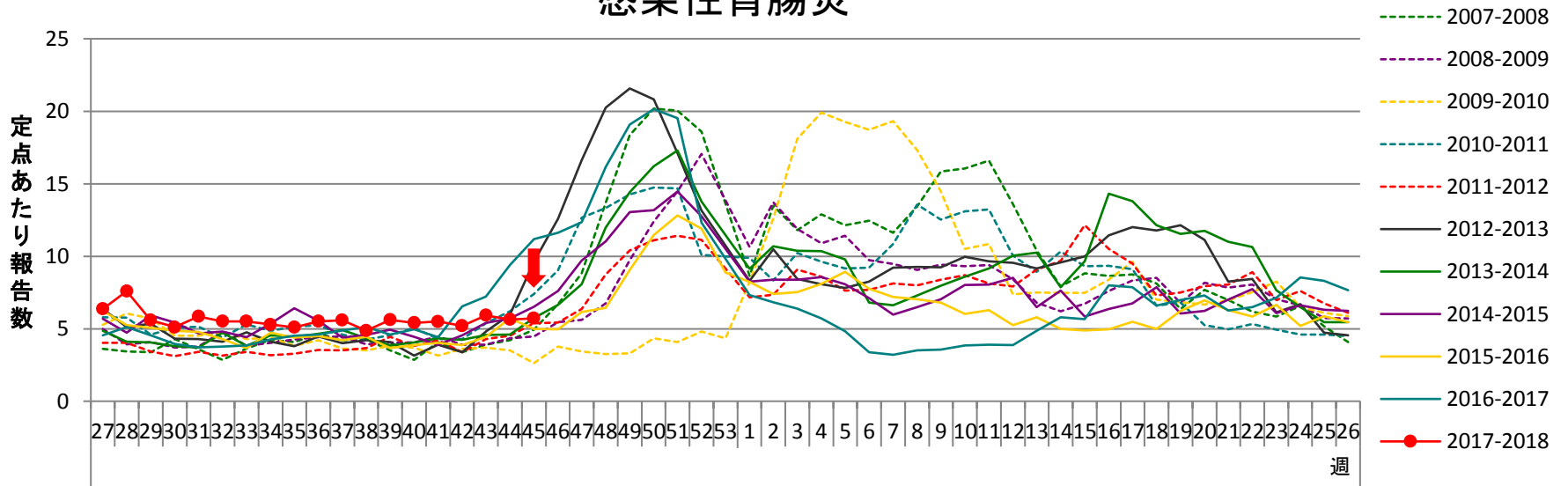
2017年 45週

分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	298	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	3	65	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	7	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	26	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	19	18	ウイルス性肝炎	-	8	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	14	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	7	後天性免疫不全症候群	-	15	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	33	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	1	5	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	2	147	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-

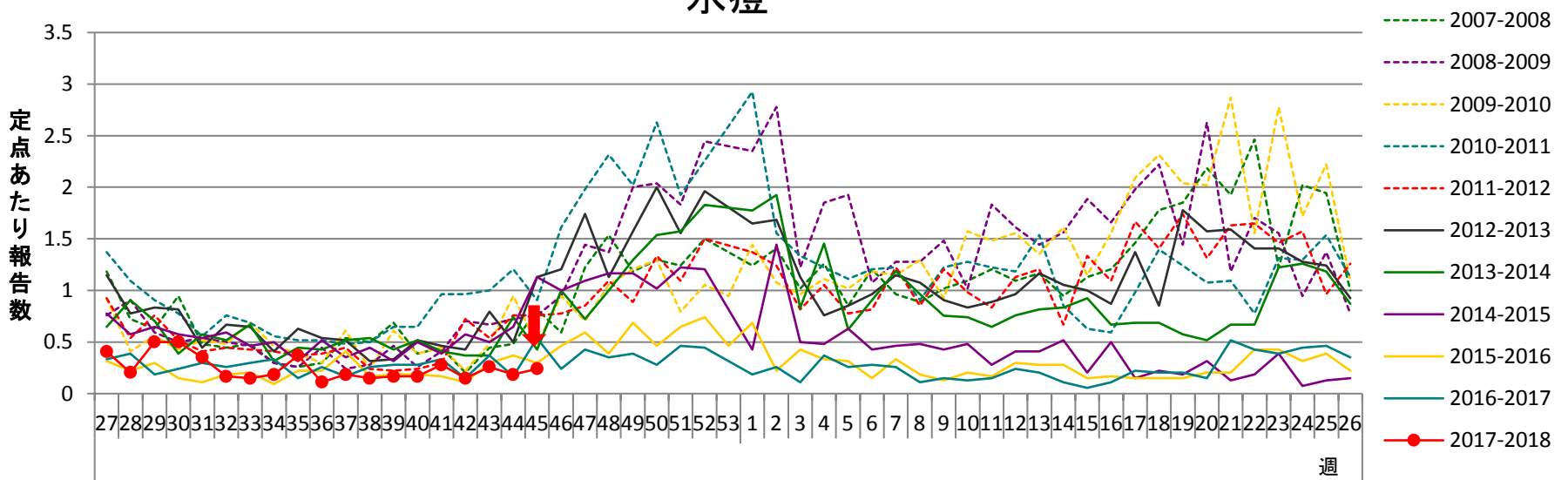




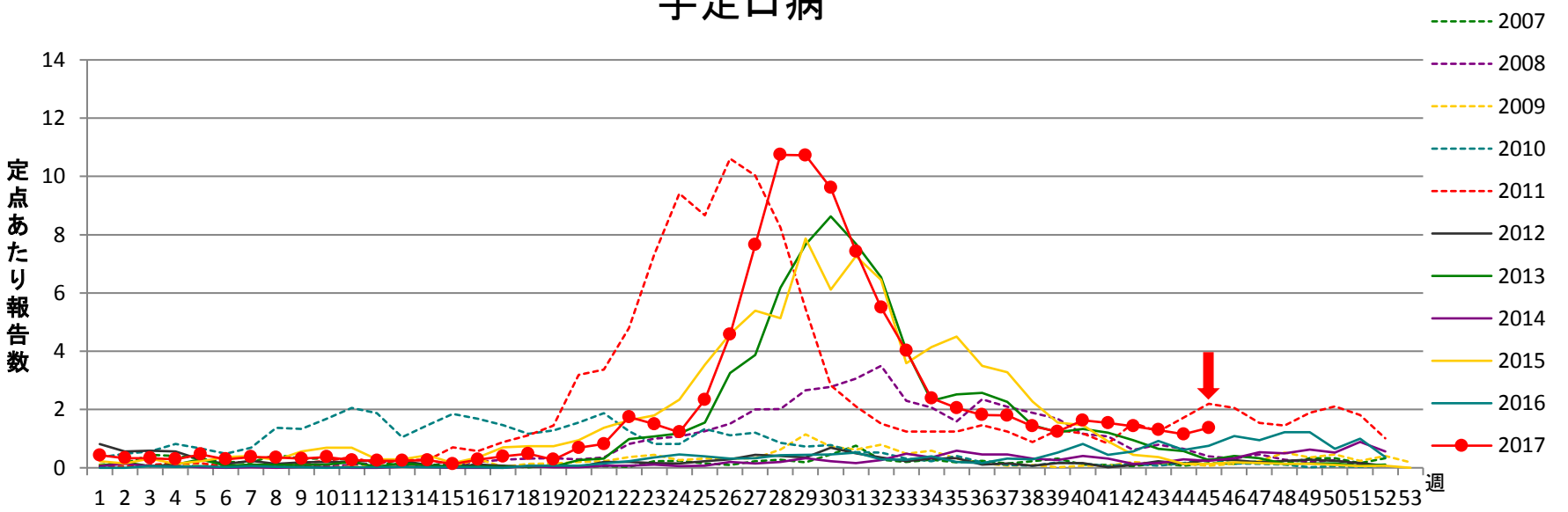
### 感染性胃腸炎



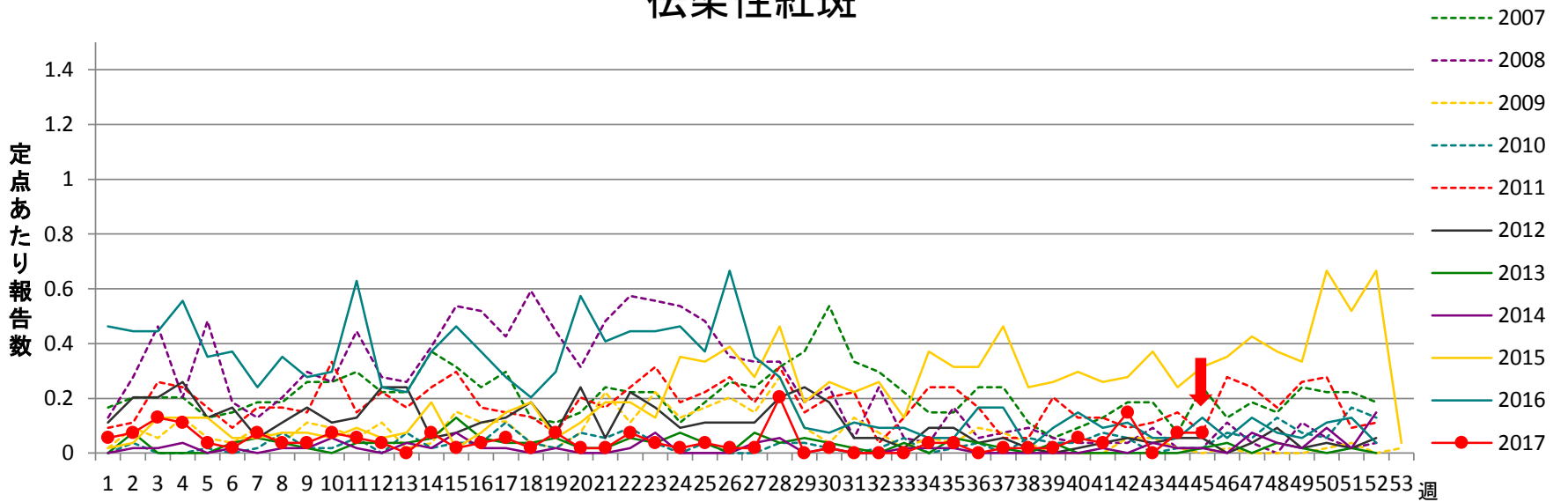
### 水痘



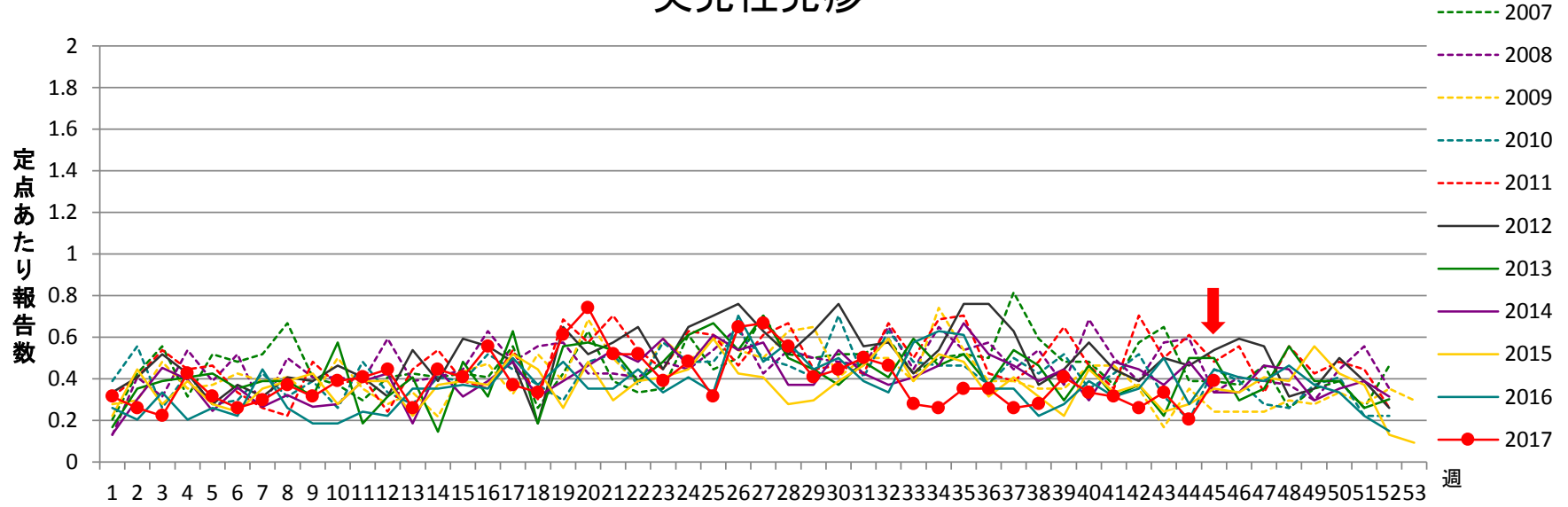
### 手足口病



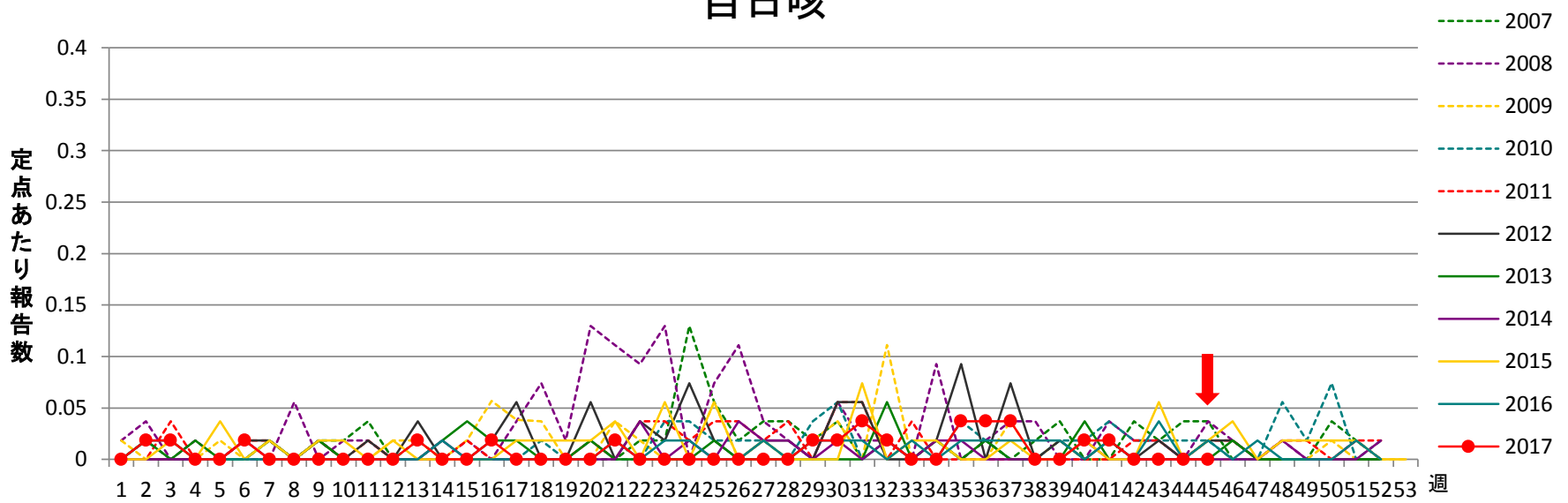
### 伝染性紅斑



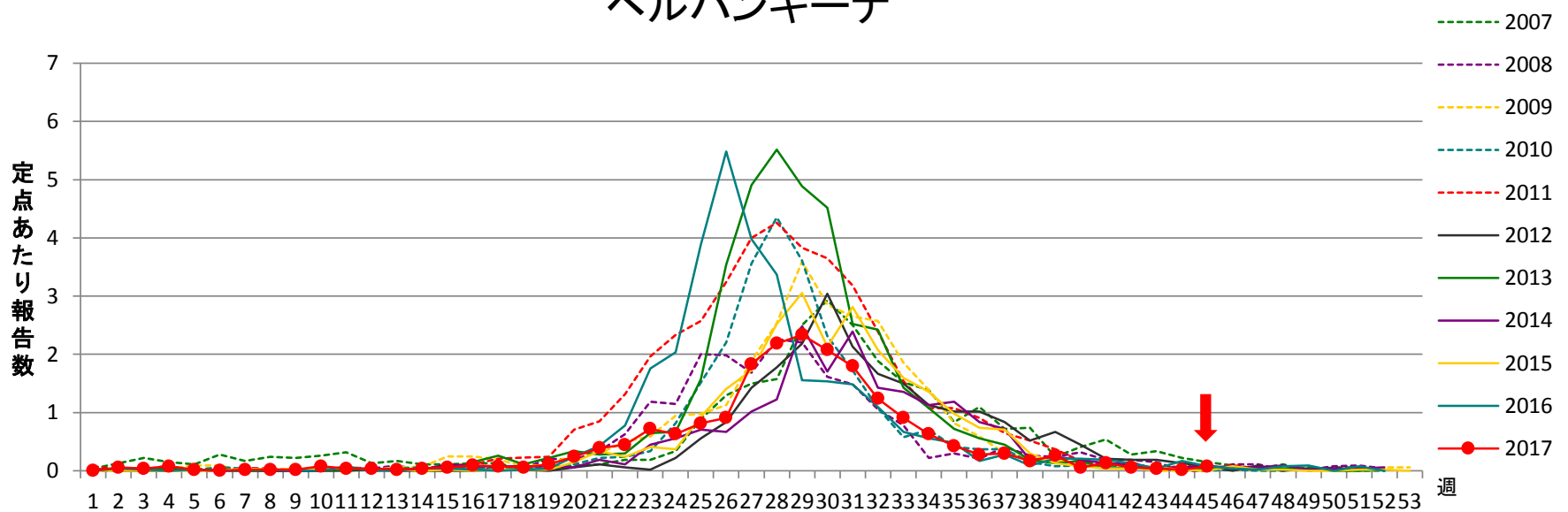
### 突発性発疹



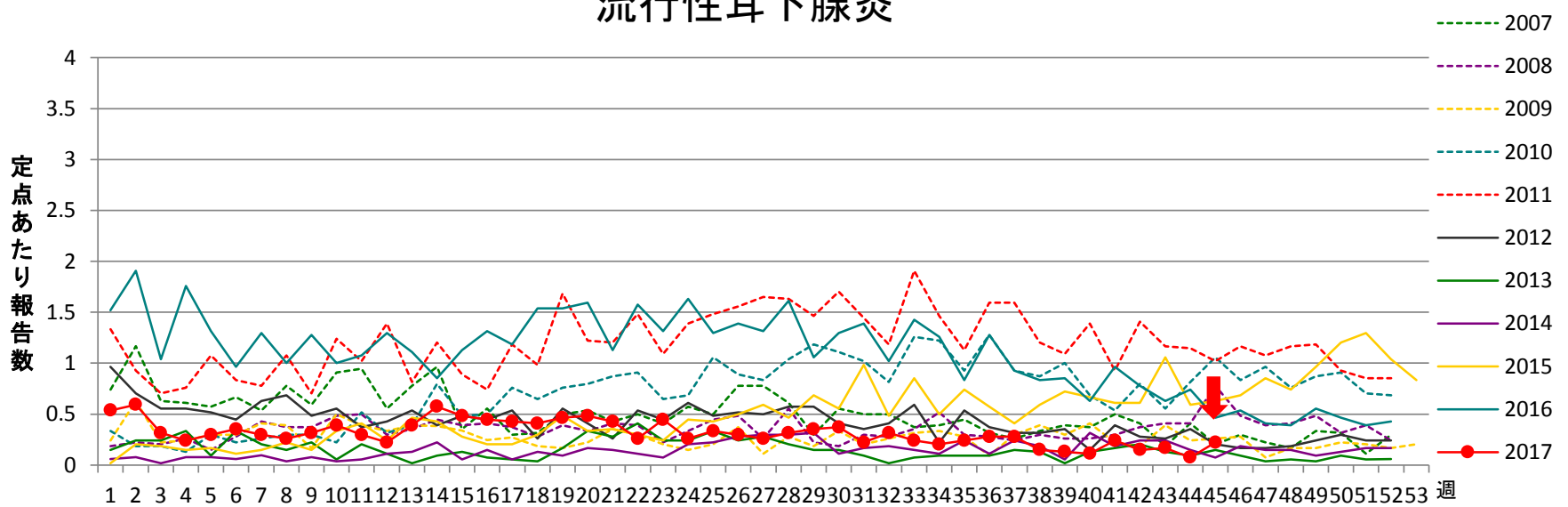
### 百日咳



### ヘルパンギーナ

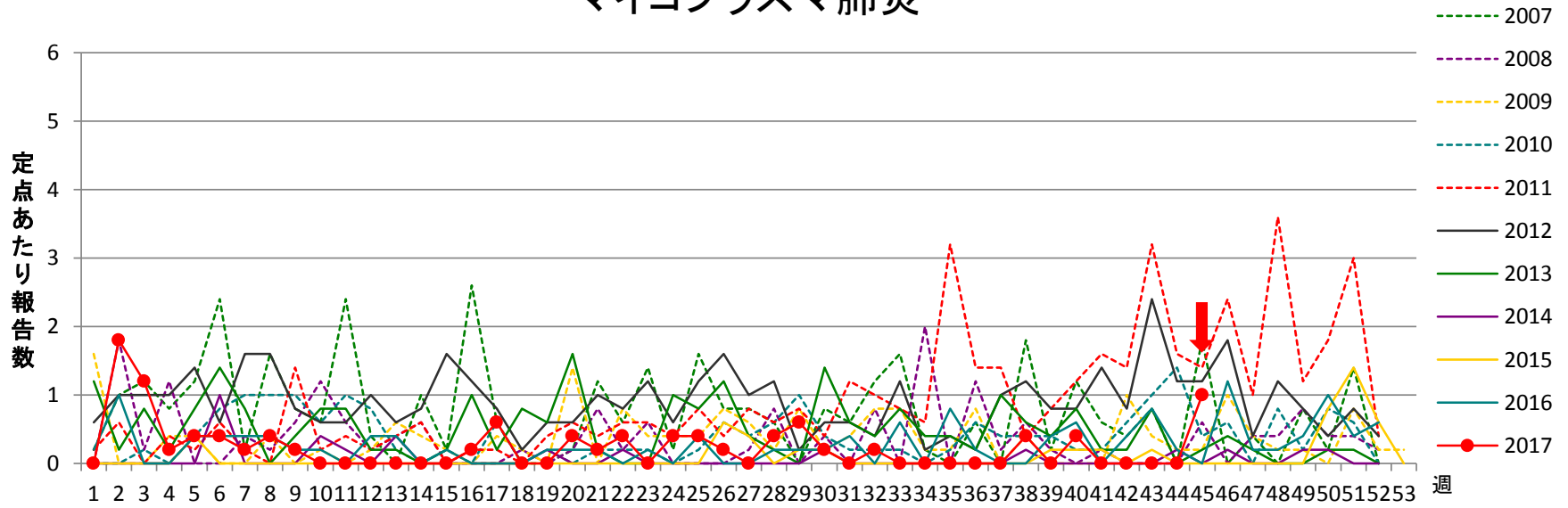


### 流行性耳下腺炎

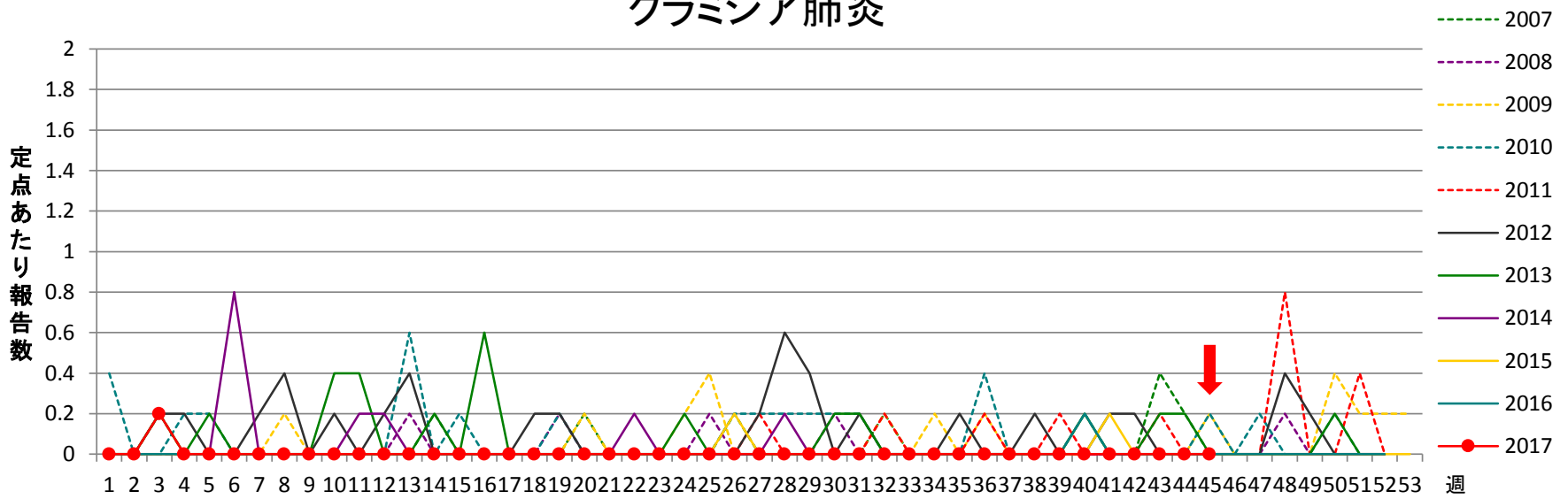




### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

